

2013 年度 漢城大学校サマープログラム 帰国報告書

札幌校 教員養成課程
特別支援教育専攻 1 年
本間 愛州佳

1、はじめに

私は、8月27日から9月13日の18日間、韓国のソウルにある漢城大学校(한성대학교)でのサマープログラムに参加しました。この期間、多くのことを学び、経験した事をここに報告します。



↑<ゲストハウス>



↑<学校までの道のり>

2、プログラムについて

①授業

授業は、全6回で、10時から12時の2時間でした。前半の1時間は、漢城大学校の土井美穂先生が、政治・経済、文化、社会、言語など様々な角度から韓国について講義してくださいました。また、韓国の実際のニュースを見て、日韓関係について考える機会もあり、韓国に住み、多様な面で活躍されている土井先生だからこそ、教えてくださる内容がたくさんありました。後半の1時間は、韓国語の授業でした。今年は私以外のプログラムに参加した4人の先輩方は、大学で韓国語を第二外国語として選択し、私も独学で韓国語を勉強していたので、皆、韓国語を読むことが出来、授業では挨拶や初歩的な会話などを勉強しました。先生と漢城大学校の3人の学生の方たちが教えてくださったので、自分では学ぶことの出来ない発音を指摘してもらい、とても良い勉強になりました。

②観光

授業以外の時間には、韓国を知るために観光をしました。漢城大学校の3人の学生と共に、自分たちで地下鉄やバスに乗り、大変多くの場所を見学し、韓国の文化や歴史、そして現代の韓国について学びました。私は、韓国の古代や李氏朝鮮王朝について興味をもち、歴史ドラマを見ることや本を買うなどしていたので、昌徳宮(창덕궁)や国立中央博物館(국립중앙박물관)などを見学することで、より韓国の王朝時代への関心が高まりました。さらに、仁寺洞(인사동)でドラマに出てくるような宮廷の韓服(한복)を着用することや、北村(북촌)の韓屋(한옥)をみることも貴重な体験でした。また、DMZ という韓国と北朝鮮の間にある非武装地帯に行き、実際に展望台から北朝鮮を見るなど、ま

だ南北の戦争は終わっていないということを実感しました。そして、同じ民族であるのに、お互いの国に行くことも出来ず、争う関係におかれているという現実に、心が痛みました。

↓<昌徳宮> <光化門広場(광화문광장)にある世宗大王(세종대왕)の像>↓



↑<国立中央博物館>

↑<北村の韓屋>

3、韓国での生活

昨年までこのプログラムに参加した先輩方同様、漢城大学校の外国人の先生方のためのゲストハウスで生活しました。ベッドやシャワールーム、キッチンなどもあり、生活するにあたって不便に感じたことは少なかったのですが、ゲストハウスでは無料 Wi-Fi があまり使えない環境でした。韓国は無料 Wi-Fi が様々なところにあり、大変便利ですが、地下鉄の中など移動中は使用することができませんでした。韓国は本当に街中にカフェが多く、無料 Wi-Fi もパスワードをきき、使用するのが良いと思います。

漢城大学校はソウルの中でも大変都会にあるため、近くにコンビニやスーパーも多く、何か忘れものや、必要なものがあれば、買い足すことが可能です。ですが、プラグ（C型、SE型）は日本で用意していくことをおすすめします。また、部屋の中で洗濯物を干すので、ハンガーを少し持っていくことや、やかんは1つありますが、電子レンジもなく、調理器具がないので、注意するのが良いと思います。

4、休日

休日は基本的に自由に行動できました。韓国は地下鉄やバスが安く乗車出来、また T-Money カードというものを利用すれば、とても便利です。バスは韓国語のみなので、

日本人の私たちだけで利用することが難しかったですが、地下鉄は少し慣れると乗りやすく、移動しやすいです。日本から共に行った学生同士で、明洞や東大門に行き、ショッピングをすることもとても楽しかったです。私は、韓国へ行く前に、漢城大学校から札幌校へ見学にきた学生と知り合いになり、メールやLINEを用いて、連絡を取り合っていたので、休日に会うことが出来ました。その方は、日本語を話すことが出来ませんが、私のつたない韓国語で韓国の好きな音楽の話をするなど、大変楽しい時間を過ごしました。その方とは新沙洞(신사동)という町にあるカロスキルという有名な所でショッピングをすることや、韓国の有名な大学のある、新村(신촌)、弘大(홍대)という町でCDショップをまわるなど、普通の韓国の学生らしい場所に行くことが出来たと思います。

<地下鉄4号線 漢城大入口前の近くにあるお粥屋さん(㉸)> ↓



↑<漢城大学校の近くにあるトッポッキ(떡볶이)のお店>

5、最後に

この18日間で、私は多くのことを学び、自分の肌で韓国を感じ、そして日韓関係について考える機会を得ました。このプログラムでは、本当にこのレポートに書ききれないほど、色々な観光名所に行きました。そしてツアーなど旅行では行くことのない韓国の地元の人たちが利用する食堂に行くことも出来、大変充実した毎日でした。しかし、普段は日本語で共に行動する人たちと話してしまうため、なかなか韓国語を上達させることが出来ませんでした。それでも、街でお店の人と話をすることや、3人の漢城大学校の学生の方たちに些細な韓国語の疑問を聞いてみるなど、自分から学びに行く姿勢が大切だと思いました。

もし、このプログラムに参加したいと考える方がいれば、応募してみることをおすすめしますし、韓国に興味があり、旅行に行きたいと考える方がいれば、是非とも韓国へ行ってみるのが良いと思います。日本で情報として知るのではなく、実際に韓国へ足を運び、自分の目と耳で学んでくるのが、一番であると思います。「韓国語が分からないから…」と考える人もいると思いますが、観光地では日本語も英語も使用できますし、「これは、いくらですか?」「これ、ください」といった少しの言葉を韓国語で覚えていけば、不便はないと思います。

このプログラムにあたってサポートして下さった漢城大学校のキム先生、土井先生、ヨヌクさん、ドンヒョンさん、シウォンさん、北海道教育大学の関係者の皆様、準備に当たり色々なことを教えてくれた漢城大学校から札幌校へ留学中のジュヒョンさん、また韓国で1人年下の私を支えてくれた4人の先輩たち、このプログラムに関わって下さった全ての皆様、そして何よりこのプログラムへの参加を快く許して下さり、初の海外への準備を手伝ってくれた家族に大変感謝しています。

↓<参鶏湯(삼계탕)>



<都羅(도라)展望台 (DMZ、北朝鮮の町並みがみえる) > ↑